

令和7年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立東中学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語、数学、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	54.3%				○	
数学	48.3%		○			
理科	503点 (IRTスコア)			○		

※中学校理科がC B T（コンピューターテスト）により実施され、学校ごとに出題された問題が異なることから、「平均正答率」に代わり「IRTスコア」という指標が使われるようになりました。

「IRTスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は500点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	48.1%					○
話すこと・聞くこと	53.2%		○			
書くこと	52.8%			○		
読むこと	62.3%	○				

【考 察】

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では全国平均を上回る結果となりました。日々の授業の中で、語彙力の向上のために新出漢字の定着やその漢字を用いた熟語の意味を確認する活動を意図的に取り入れてきたことで、語彙の定着や広がりにつながったものと思われます。
- 「読むこと」の結果では全国平均を下回りました。正答を導くためには文章全体を読んで判断しなければならないのですが、問題文の一部のみに注視して性急に判断してしまったことで、誤答につながったようです。本文の一部ではなく全体を的確に読み取り、何を聞かれているのかを確認するなど、正しく読み取る力が身につくよう指導していきます。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	43.5%			○		
図 形	46.5%		○			
関 数	48.2%			○		
データの活用	58.6%	○				

【考 察】

- 「図形」や「データの活用」の領域で、用語の意味やその使い方に関する問題の正答率が全国平均を下回りました。今後は、用語の意味を正しく理解させた上で、適切に活用する場面を多く設定し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていきます。
- 数に関する事象について考察し、その事柄が成り立つ理由を説明する問題や、日常的な事象について関数の関係に着目し、問題解決の方法や手順を説明する問題が全国平均を上回りました。他者と協働的に問題を解決する中で、その根拠や方法・手順を丁寧に伝え合ったり、的確に記述したりすることに根気強く取り組んだ成果だと考えます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※理科については、一部の共通問題を除き、学校ごとに出題された問題が異なり、かつ公表されている問題も全体の4割程度となっており、国語や数学のように領域別の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 電気回路の問題や実験で精製水を用いる理由を答える問題では、全国平均正答率を上回る結果でした。普段から実験結果や既習事項をもとに継続的に思考し、表現する活動を重視している成果であると考えられます。また、ICTを活用し、学習内容と日常生活を結びつける活動を取り入れた成果であると考えられます。
- 地層に関する問題の正答率が低い結果となりました。実際に見ることが難しい地層への苦手意識をもつ生徒が多いため、火山灰や岩石の観察、ICTの活用による地層などの地球内部の可視化を通して、視覚的に内容を理解させられるように指導していきます。